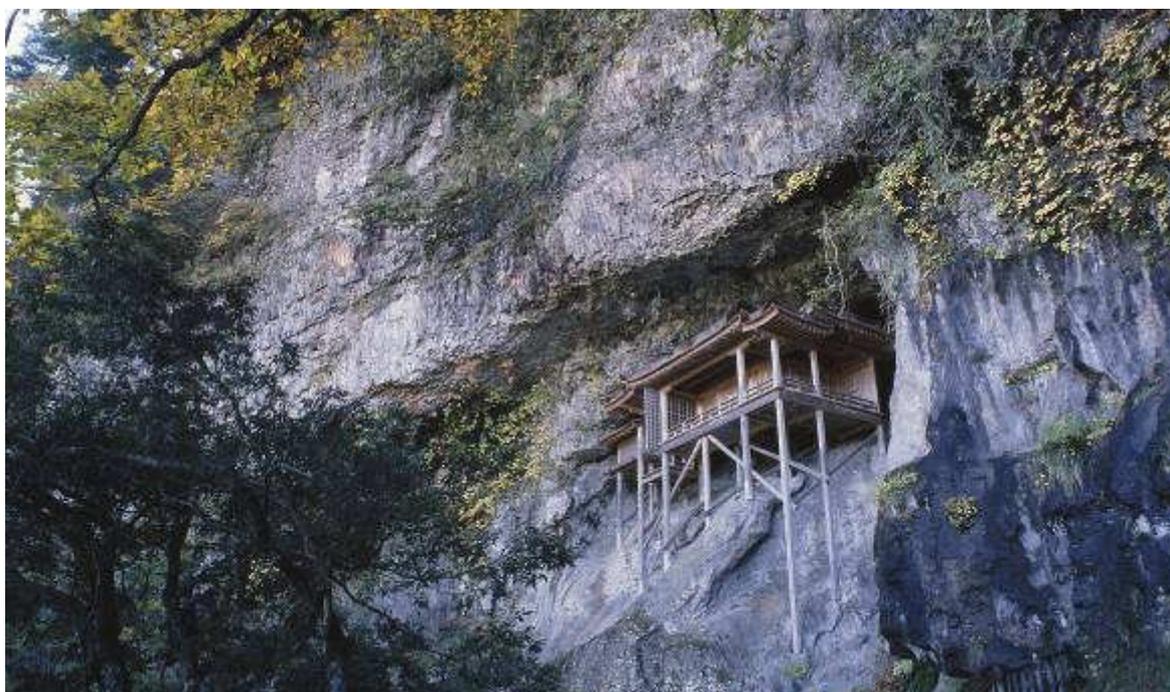


平成18年度

(2006年度)

海外技術研修員等 研修報告書



三徳山三佛寺 国宝・投入堂（三朝町）

鳥 取 県

はじめに

海外技術研修員受入事業は、将来を担う海外の青年を「海外技術研修員」等として招き、必要な技術を習得していただくものです。母国の発展に貢献する人材を養成するとともに、県民との友好親善を図ることを目的としています。

鳥取県では昭和62年度、友好関係にある中国河北省から「農業研修生」「緑化研修生」として5名を受け入れて以来、平成17年度までにブラジルから28名、中国から121名、モンゴルから15名、パラグアイから1名の合計165名を受け入れてまいりました。

このほかにも「韓国江原道行政実務研修生」「外務省長期青年招聘事業研修員」「国際協力機構（JICA）自治体連携研修員」として来県した研修員も5カ国22名に上ります。また、ブラジルからの県費留学生も17年度まででのべ54名となり、自治体レベルでの国際協力は着実に進展しております。

本年度は海外技術研修員としてブラジルから1名、モンゴルから1名の合計2名が、6か月から9か月の間、県内の関係機関で研修を受けました。ブラジルからの県費留学生1名も鳥取大学において研究に励みました。

海外の地方自治体職員が日本の地方行政のノウハウなどを習得するための自治体職員協力交流事業では、平成8年度から17年度までにベトナム、韓国、マレーシア、中国から合計18名を受け入れております。本年度は、中国から1名が来県され、鳥取県庁において研修を行いました。

これら研修員・留学生の皆さんは、言葉や気候・生活習慣の違いという壁もありましたが、研修機関の熱心な御指導もあり、技術・知識の習得に励むことができました。また、研修期間を通じての日本語学習のほか、県内および国内各地を訪れ、日本文化への理解を深めるとともに、県民との交流に努められました。

帰国後は、研修や勉学の成果を十分に生かし、母国の発展に貢献するとともに、わが国との友好の架け橋となってくれると期待しております。

この報告書は、研修員・留学生が学んだ内容や日本や鳥取県の印象などをまとめたものです。研修員の皆さんの意気込みと成果を読み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり御協力いただきました関係機関の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

鳥取県文化観光局交流推進課長 山本仁志

目 次

平成18年度海外技術研修員等一覧.....	2
海外技術研修員.....	3
エリキ フナバシ（ブラジル）.....	4
ゲンデンプレブ ガンバト（モンゴル中央県）.....	12
自治体職員協力交流研修員.....	19
衣 飛（イ フェイ）（中国吉林省）.....	20
県費留学生.....	33
ルセリア ユミ イヌマル（ブラジル）.....	34
名 簿.....	47
海外技術研修員.....	48
中国河北省技術研修生.....	50
中国河北省農林漁業研究者.....	50
中国河北省農業研修生・緑化研修生.....	51
中国黒竜江省農業研修生.....	53
韓国江原道行政実務研修生.....	53
自治体職員協力交流研修員.....	54
外務省長期青年招聘事業研修員.....	54
国際協力機構（JICA）自治体連携研修員.....	55
ブラジル県費留学生.....	55

平成18年度海外技術研修員等一覧

1. 海外技術研修員（2名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
ブラジル	エリキ フナバシ	男	26	食品流通	鳥取県市場開拓室 中井酒造株式会社	H18.6 ～ 19.3
モンゴル (中央県)	ゲンデンプレブ ガンバト	男	32	農業	県立農業大学校 園芸試験場	H18.4 ～19.10

2. 自治体職員協力交流事業（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
中国 (吉林省)	衣 飛 (イ フェイ)	女	27	商工行政	鳥取県産業開発課	H18.5 ～ 19.3

3. 県費留学生（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
ブラジル	ルセリア ユミ イヌマル	女	27	幼児教育	鳥取大学	H18.4 ～ 19.3

海外技術研修員
(ブラジル、モンゴル中央県)

1. 研修員プロフィール



氏 名 エリキ フナバシ
年 齢 26歳
国 籍 ブラジル
出 身 サンパウロ州サンパウロ市
研修分野 食品流通（マーケティング）

2. 研修機関の概要

機関名 中井酒造株式会社 倉吉市中河原555番地
代表者 社長 中井 俊郎
指導者 ゼネラルマネージャー 中井 丈広

機関名 鳥取県商工労働部兼農林水産部市場開拓監
鳥取市東町一丁目220
代表者 鳥取県商工労働部兼農林水産部市場開拓監 米田 裕子
指導者 鳥取県商工労働部兼農林水産部市場開拓室長 門脇 誠司

機関名 鳥取県文化観光局 鳥取市東町一丁目220
代表者 鳥取県文化観光局長 青木 由行
指導者 鳥取県文化観光局交流推進課長 山本 仁志

3. 研修経過

月 日	研 修 内 容
2006. 6. 25	来日
6. 26	しまね国際研修館での研修開始
7. 5	くりんぴーすりサイクルプラザ見学
8. 1	県庁交流推進課での研修開始
8. 21	鳥取県産業振興機構での研修（25日まで）
9. 1	県庁市場開拓監での研修開始
9. 12	東京「日本橋三越物産展」視察のため出張（13日まで）
9. 20	鳥取県国際交流財団主催の研修旅行で東京方面へ（21日まで）
9. 26	海外日系人大会に参加（東京、28日まで）

10. 18	中井酒造株式会社の阪神百貨店試飲会視察で出張(大阪、24日まで)
10. 26	中国地方海外技術研修員合同交流事業参加(広島、27日まで)
11. 1	中井酒造株式会社の研修開始
11. 28	鳥取県国際交流財団倉吉事務所のチャット・サロンにて県民と交流
2007 1. 13	鳥取県国際交流財団で「日本のお正月」に参加し、県民と交流
2. 1	県庁交流推進課に復帰
2. 4	鳥取県国際交流財団主催「日本文化を楽しむバス・ツアー」に参加し、県民と交流
2. 20	鳥取県大阪事務所等の視察(大阪、22日まで)
3. 14	帰国前表敬、研修修了式・送別会にて研修成果を発表
3. 18	離日

4. 研修報告

はじめに

日本に来る前に日本の音楽を聞いたり、アニメを見たり、テレビやインターネットから日本の事を学んだりして、自分の中でイメージしてきました。サンパウロ市には日本的なものもありますから、心配はしませんでした。日本に来た時、文化や習慣、生活などの違いを感じました。でも日本語の先生たちが手伝ってくれましたし、松江市は静かな所でしたから、少しずつ日本の生活に慣れていきました。

日本語研修

松江市にあるしまね国際研修館で1カ月間、日本語を勉強しました。授業は毎日9時から16時まででした。学生が少なかったので一緒に食べたり、勉強したり、掃除をしたりしました。掃除は最初は厳しいことだと思いましたが、あとになって大事なことだと思いました。

松江市での経験は私にとって大切なことでした。友達と先生達に日本語を話さなければならなかったので、だんだん日本語が分かるようになりました。中国、ロシア、韓国からの人たちと一緒に勉強したり、生活したり、遊びに行ったりして本当に楽しかったです。私たちは毎日自分の部屋で宿題をして復習をしました。あとは買い物をしたり、夕食を作ったりしました。みんなはいつも夜に集まって会話をしました。

松江では日本語の勉強だけではなく、日本の文化と生活をよく習いました。例えば茶道と安来節、銭太鼓も教えてもらいました。他に、防災の説明とバスの乗り方も教えてもらいました。松江市のリサイクルプラザを見学しました。研修館の生活ではゴミの分

別をよくしていました。それでくりんぴーすりサイクルプラザでゴミの種類を分けることを学びました。ブラジルでもゴミの分別がありますが、分け方は全然違います。日本ではゴミは大事なものだということがよく分かりました。

また、松江の祭で私たちはおみこしをかつぎました。重かったけど本当におもしろかった。その時に日本人と話したり、交流ができました。私にとって、とてもいい経験だと思いました。

専門研修について

1－鳥取県交流推進課

鳥取県交流推進課では1カ月間、研修をしました。その時に自分で鳥取の食品会社のことを研究しました。英語でしたから日本語の読み方を練習しませんでした。職場のみなさんとは日本語でよく話をしました。実は分からない言葉がたくさんあり、いつもみなさんに意味を聞いていました。みんなは私にとってもやさしくしてくださり、私を本当に手伝ってくれました。

ここで研究したのは鳥取県のものだけでなく、日本のデータも研究しました。そのため、日本の食品やいろいろな経済の数値が分かりました。この研究は他の研修のときに役に立ったので、よかったです。

交流推進課での研修期間中、1週間ほど鳥取産業振興機構で研修をしました。そこでは食品の経済と鳥取県庁が行っている企業へのサポートについて教えてもらいました。経済の研究やマーケティングなど、たくさんの説明を受けました。鳥取の食品経済と日本の食品経済は似ているから、鳥取県以外のことも教えていただきました。

産業振興機構には新しい製品をつくるための研究センターがあり、私はそこを見学しました。科学技術が多かったのでびっくりしましたが、現在では食品分野での科学技術の利用が急速に増えています。私の専門にとっても役立つ経験でした。

また、2月20日から22日まで、私は大阪事務所で研修しました。この事務所は鳥取県の有名な食べ物や場所、鳥取大学などのPRをしています。そのため大阪事務所だけではなくJA鳥取の事務所もあり、協力して関西で鳥取県の宣伝をします。

関西には兵庫県や奈良県、京都府、大阪府、和歌山県、三重県が入りますが、鳥取の食品の大切な顧客です。鳥取から梨、すいか、野菜、水産物、和牛などを買いますから、大阪事務所は大阪の市場と連携します。研修では食品の説明や経済統計、販売促進のことなどを説明していただき、また食品の評価や、和牛と水産物のセリを見学したりしました。

大阪での経験はおもしろかったです。大きい町では鳥取の食品と他の県の食品が比較されていました。大阪でよく売れている商品を見たりして、どんなところがそれらを提

供しているかが分かりました。大阪では輸入された物も多く、どんなものが、どこからきているかということも聞きました。

2－鳥取県市場開拓監

鳥取県市場開拓監では2カ月間、研修をしました。市場開拓監は鳥取県内の会社と連携します。食品加工などの会社と一緒に仕事をします。いろいろな会社を見学しました。例えば、水産加工会社や菓子会社、JAの事業などをよく見に行ったり、説明を聞いたりしました。また、たくさんの食品イベントや商談会、試食会などに参加しました。

研修中に市場開拓監のみなさんにいろいろ案内してもらいました。時々米子市と倉吉市と境港市に見学に行きました。その時にみなさんとブラジルの事をよく話しました。そして日本の事を聞いたり、ブラジルの事を話したり、比較したりしました。日本の食べ物とブラジルの食べ物は違いますから、やはり日本の食品とブラジルの食品も違います。

最初は説明が難しかったけど、少しずつ鳥取の食品が分かっていきましたので、説明の意味もだんだん分かるようになりました。ほとんどはブラジルと違うものなので、私にとっていい経験だと思いました。

3－中井酒造株式会社

中井酒造では3カ月間、研修をしました。中井酒造は「八潮」(やしお)というお酒をつくっている会社です。そこではお酒の作り方を勉強しました。最初は杜氏さん(お酒をつくる人)がまだ来ていなかったの、ビン詰めを手伝いました。杜氏さんが来てからは、作る準備を手伝いました。それでも時々はビン詰めを手伝いました。杜氏さんは「もっと寒くなったらお酒をつくる」と言いました。

準備が終わり、寒くなって、お酒を作りました。その時には私はよく杜氏さんの手伝いに行きました。古いお酒を濾過したり、お米を洗ったり、麴を作ったりしました。重い物を運んだり、冷たい水とお湯をよく使ったりしましたから大変でしたけど、杜氏さんと同じ仕事ことができましたから、いい体験になりました。

中井酒造では、お酒の販売方法も教わりました。大阪のイベントで試飲の説明とお酒の種類説明を教してもらいました。そして年末には中井酒造ではいろいろな特別販売セットを作ります。販売も増えますから、みなさんいそがしくなりました。そのセットはいろいろなお酒の種類がありますから、お客さんはいろいろなお酒が試飲できます。

お酒には違う種類があり、味も違いました。お米の種類とアルコールの分量、つくり方などでお酒の味を変えます。ブラジルではお酒はいつも輸入品ですから、つくる会社

はあまりありません。ですから今回の経験はおもしろかったです。

生活

私は日本での生活とブラジルの生活は全然違うと思いました。松江では自転車であちこちに行って、友達と一緒に買い物をして、散歩をして、楽しかったです。サンパウロ市では自転車が走る道はあまりないから、危ないです。

日本ではいろいろ新しい経験をしました。例えば部屋の掃除をしたり、洗濯をしたり、料理を作ったりしました。サンパウロには日本食はたくさんあるので大丈夫だと思いましたけど、日本に来た時に食べ物はあまいと思いました。でも毎日食べたから、かなり慣れました。

ブラジルと日本の天気はとても違っていました。日本で夏は蒸し暑いし、冬は本当に寒かったです。ブラジルでは雪が降りませんから、初めて雪が降るのを見た時は嬉しくなった。また、日本の伝統的イベントと有名な場所を見に行きました。しゃんしゃん祭りと国際交流財団の研修旅行は楽しかったです。

終わりに

日本に来てから、いろいろな体験ができました。私の専門分野の研修をしたり、説明をしていただいたりしました。ブラジルに帰ったあとの自分の未来にとって大切なことです。また私の祖母の生まれた所を知り、日本で友達をつくったり、外国の人と交流したりできたので、嬉しかったです。

日本にいる間に心の中で最高の思い出をつくりました。そして日本の文化と習慣が身近なものになりました。このような機会をいただいたことに、本当に心から感謝いたします。



鳥取県産業振興機構での研修



しゃんしゃん祭りに参加して



海外日系人大会に参加して



ブラジルの友達と一緒に富士山登山

1. 研修員プロフィール



氏 名 ゲンデンプレブ ガンバト
 年 齢 32歳
 国 籍 モンゴル
 出 身 モンゴル中央県バヤンツォグト町
 研修分野 農業（野菜栽培）

2. 研修機関の概要

機関名	鳥取県文化観光局	鳥取市東町一丁目220
	鳥取県立農業大学校	倉吉市関金町大鳥居1238
	鳥取県園芸試験場	東伯郡北栄町由良宿2048
	鳥取県園芸試験場弓浜砂丘地分場	境港市中海干拓地27
	鳥取県園芸試験場日南試験地	日野郡日南町阿毘縁1203-1
代表者	鳥取県文化観光局長	青木 由行
指導者	鳥取県文化観光局交流推進課長	山本 仁志
	鳥取県立農業大学校長	真山 育雄
	鳥取県園芸試験場長	齊藤 哲
	鳥取県園芸試験場弓浜砂丘地分場長	福本 明彦
	鳥取県園芸試験場日南試験地長	小林 弘昌

3. 研修経過

月 日	研 修 内 容
2006. 4. 15	来日（成田空港到着）
4. 17	日本語研修を開始（しまね国際研修館）
5. 19	日本語研修の発表会・閉講式・交流会に出席
5. 22	農業大学校での研修を開始。倉吉市役所を表敬訪問
6. 16	第一回意見交換会（農業大学校）
7. 7	第二回意見交換会（農業大学校）
7. 22	モンゴル中央県児童受入事業・交流事業に参加（湯梨浜町）
8. 21	園芸試験場日南試験地での研修を開始
8. 27	鳥取県国際交流財団のチャット・サロン（モンゴル）にゲスト参加

9. 3	園芸試験場弓浜砂丘地分場での研修を開始
9. 11	園芸試験場本場での研修を開始
9. 15	実地研修をすべて終え、鳥取市内へ移動 交流推進課にて研修報告まとめ（～28日）
9. 20	鳥取県国際交流財団主催の研修旅行で東京方面へ（～21日）
9. 25	副知事に帰国前表敬
9. 28	研修修了式、送別会に出席
9. 29	鳥取空港より離県
9. 30	成田空港より帰国

4. 研修報告

皆さん、こんにちは。

私は、鳥取県で野菜栽培や収穫について5カ月間の研修をしました。皆様のお陰で研修を無事に終わることができ、大変感謝しております。

（1）松江での日本語研修

一カ月間の日本語の初級研修でした。ここで、日本語に平仮名、片仮名、発音、文章構成、動詞活用などを教えていただいて、自己紹介つまり日常会話の勉強をしました。日本語を初めて聞いたときは、発音の区別は出来ませんでした。言葉が全部一緒に聞こえていました。日本語の研修の時は、分からないことや楽しいことがたくさんありました。例えば、お客さんが見に来られた授業での自己紹介の時、あるモンゴル人の女性の歌手の歌を聞くのが好きだと言いたかったのですが、「聞く」という言葉を忘れてその歌手のことが好きという文書になって皆さんが大笑いでした。また、毎日弁当を頼んで食べていましたが、その弁当と一緒に来るお茶を白いご飯の上にかけて食べ、先生に笑われました。しかし、後で優しく教えてくれました。こんな風に楽しいことがたくさんありました。

（2）農業大学校での研修

農業大学校の野菜科で3カ月間研修しました。長く感じていましたが、あっという間に終わりました。農業大学校での研修では、ハウスの中でスイカ、トマト、キュウリ、イチゴ、甘長トウガラシ、ピーマンなど、露地ではジャガイモ、ナス、ニンジン、玉ねぎなどの野菜の栽培方法や世話の方法などについて研修しました。その中で自分が担当していたハウスで、スイカの栽培方法について研修しました。野菜の育成の時の世話、

子づるを切る、脇芽取り、間引き、灌水、堆肥の入れ方などについて研修しました。

例を挙げると：

スイカ： 二つや三つの茎で栽培します。一つか二つの実が出るように世話をします。一つの実に五つの葉っぱが出るように、一つの雌花に四つの雄花があるように栽培します。脇芽を取ったり、交配、堆肥を入れたり、灌水したり、虫が出たとき農薬を散布したりしました。また、収穫の研修をしました。スイカ自体は、暖かい気温が好まれる野菜なのでハウスで栽培する時、ハウスの中にトンネルを作って、そのトンネルの中に栽培していました。

トマト： 脇芽を取ったり、子づるを切ったり、ホルモン処理したり、鉢上げをしたり、収穫をしたり、出荷前にきれいにしたり、梱包したりしました。トマトの研修の中で、一つのこと分かりました。つまり、日本では三種のトマトがあります。その中でミニトマトの育成の時、二つの実の間の葉を両側のトマトの実が赤くなってから切ります。収穫の後で実の本茎を切る方法を始めて知りました。これはいらぬ葉っぱに栄養がいかないという良い点があります。

ピーマン： モンゴルでは、ピーマンを二種類に分けます。しかし鳥取では様々な種類のピーマンがあることが分かりました。また、そのピーマンの日本語の名前を覚えました。例えば、ピーマン、パプリカ、甘長トウガラシ、ししとうなどです。一つの茎から、2～4の茎を残して本茎の三つ目から下の葉っぱを切ります。

メロン： 路地でのメロンを二つの茎で栽培します。一つの茎に二つの芽が出るように子づるを切ります。それで芽から十番目のつるの先を切ります。交配や収穫の研修もしました。

マルチ： モンゴルでは、あまり使われないマルチを野菜栽培にどんな風に使うかについて勉強し、様々な色のマルチの役割について勉強しました。

(3) 園芸試験場・日南試験地での研修

標高600メートルの、ある程度モンゴルの気候と似ている涼しいところでした。そこでハウスの中でトマト、露地で甘長トウガラシ、玉ネギ、ブロッコリーなどに

ついて試験しているところを見て勉強しました。

トマト： 堆肥、肥料、灌水、品種の試験、病気に強い品種の茎に育成の良い茎を接ぎ木して病気に強いが強くないかについて試験、収穫量、実の形などの試験を見ることが出来ました。

ブロッコリー： ブロッコリーの様々な栽培期間についての試験、肥料の量、肥料を使う期間などを見て研修しました。

白ネギ： 株間、畝間などの距離の遠さや近さの試験を研修しました。

(4) 園芸試験場・弓浜砂丘地分場での研修

海拔0メートルの干拓地で白ネギ、長いもの世話、肥料の使い方、収穫の研修をしました。また、ラッキョウ、わけぎといったモンゴルであまり栽培しない二種類の子白ネギを植えたり、世話しているところを見ました。ここでは白ネギの新しい品種、肥料の使い方、様々な栽培方法について研究していました。

(5) 園芸試験場・本場での研修

ミニトマトを蜂で交配させる試験やイチゴの定植、定植前の苗の消毒、どんな風に肥料を使うかなどの試験に実際に参加しました。

(6) 感想

初めての海外でしたので楽しくて忘れられない思い出が沢山ありました。

初めて海を見ました。皆様のご存知のとおりモンゴルには海がありませんので、モンゴル人は海を見たいという夢を持っています。皆様のお陰で、なかなか叶えない夢を実現できて大変嬉しいです。その中で日本海を見たことが光栄に思います。

気候が大変暑かったです。ハウスの中で研修したことが多かったので汗もよくかいていました。それで飲み物を沢山飲まないといけないし、少しやせました。

日本に来る前に日本人が辛いものをよく食べるというイメージがありました。日本に来て実際に食べてみると逆に食事が甘く感じ、食べられませんでした。また、刺身や寿司など日本の伝統的な料理も食べられませんでした。虫を食べているような気がしていました。

現在モンゴルで日本大相撲が大人気です。モンゴル人の力士も大活躍です。モン

ゴル人はテレビで相撲を見て楽しんでいるだけなのに、私は日本にきて両国国技館で応援することが出来ました。このチャンスを与えてくださってありがとうございます。

もう一つ印象に残ったのは、日本人のやさしくて勤勉な性格です。日本人は時間を大切にしています。農業大学校で遅刻して先生に言われたことがあります。

土日は友達や先生と一緒に鳥取の花回廊、大山、砂丘、浦富海岸へ行ってみました。また、広島県の実験ドーム、宮島などの名所へ行きました。

(7) 今後の目標

皆様のお陰で研修を無事に終え、帰国します。これからも鳥取県で研修したことを母国モンゴル中央県ジャルガラント町の人々や農家に教えて野菜を普及させます。これは、わが国やわが県の農業発展に少しでも役に立つと思っております。今回の私の研修の間、いろいろとお世話になった鳥取県交流推進課、農業大学校の先生方および園芸試験場の皆様、鳥取県国際交流財団の皆様に心からお礼申し上げます。鳥取県の美しい自然、文化、習慣などをモンゴルの人々に写真を見せながら伝えたいと思います。

皆さんも是非モンゴルに遊びに来てください。心からお待ちしております。

最後になりますが、皆様のご健勝、ご活躍をお祈りいたします。



農業大学校でお世話になった人々



農業大学校での野菜の収穫



園芸試験場でのハウス栽培



弓浜砂丘地分場での農業機械実習

自治体職員協力交流研修員
(中国吉林省)

1. 研修員プロフィール



氏 名 衣 飛 (イ フェイ)
年 齢 27歳
国 籍 中 国
出 身 吉林省龍井市
研修分野 商工行政

2. 研修機関の概要

機関名 鳥取県商工労働部 鳥取市東町一丁目220
代表者 鳥取県商工労働部長 山口 祥義
指導者 鳥取県商工労働部産業開発課長 中山 孝一

3. 研修経過

月 日	研 修 内 容
2006. 5. 21	来日 (成田空港到着)
5. 22	開会式、オリエンテーション (東京都内)
5. 23	東京都内観光 (国会議事堂、東京証券取引所)
5. 25	日本語研修開講・オリエンテーション (全国市町村国際文化研修所・滋賀県大津市)
5. 27	スタディーツアー (琵琶湖博物館見学、石寺市信楽焼体験)
6. 10	京都市内観光 (二条城、金閣寺、清水寺、西陣見学)
6. 21	日本語研修最終発表会、クラスで朗読賞受賞
6. 22	閉講式、滋賀県を離れ鳥取県に移動
6. 23	県庁交流推進課、鳥取県国際交流財団へあいさつ。外国人登録
6. 26	入県時オリエンテーション (28日まで)
7. 4	専門研修開始、県議会傍聴
7. 7	鳥取県産業振興機構、ジェトロ (日本貿易振興機構) を訪問
7. 10	県庁各部の事業概要を聞く
7. 18	地方自治研修講座に参加 (台湾の地方自治について)
7. 20	行政品質向上事例発表会に参加
7. 28	境港貿易振興会、さかいみなと貿易センター、境港市役所訪問
8. 3	企業訪問 (コクヨ事務用品工業ほか)

8. 21	財団法人鳥取県産業振興機構で研修（25日まで）
8. 28	経営革新支援室の研修
8. 29	新事業創出全国フォーラムに参加（広島県）
8. 31	企業訪問（サングルメ、因幡環境整備）
9. 6	企業訪問（澤井コーヒーほか）
9. 8	とっとり発ブランドファッションショー in 松戸市に参加（千葉県）
9. 11	産学官連携推進室の研修。鳥取大学振興協力会に参加
9. 12	新連携支援制度の説明を聞く
9. 13	緑化事業企業を訪問（ジーアイシー、フジタ）
9. 14	水温研究全国大会に参加
9. 15	鳥取大学、鳥取環境大学を訪問
9. 20	鳥取県国際交流財団主催国内研修旅行（東京）（21日まで）
9. 25	知的財産担当の研修
9. 25	三朝温泉旅館協同組合訪問
9. 26	ちずぶるー（智頭町藍染工房）見学、鳥取情報文化研究所訪問
9. 27	知的財産セミナー（発明届出書の書き方、明細書の読み方）
9. 29	鳥取県衛生環境研究所、栽培漁業センター訪問
10. 2	経済政策課の研修
10. 3	県営施設視察（二十世紀梨記念館）
10. 5	大規模店等視察（ジャスコ鳥取北店、ラ・ムー）
10. 6	とっとり発新食材展示会に参加
10. 10	とっとり総研研究報告会を聞く
10. 11	鳥取商工会議所、商工会連合会訪問
10. 12	中小企業団体中央会、共同組合鳥取鉄工センター、鳥取電機訪問
10. 13	信用保証協会訪問
10. 16	自治体国際化協会（CLAIR）主催中間研修（東京）（17日まで）
10. 20	新分野進出建設企業訪問（三宝土、船本建設）
10. 23	企業立地課の研修
10. 24	人権研修
10. 26	中国地方海外技術研修員合同交流事業（広島県）（27日まで）
10. 31	企業誘致のため企業訪問（京都）（11月2日まで）
11. 10	産業観光企業訪問（寿製菓、益尾酒造、サントリー奥大山ほか）
11. 19	SC鳥取の試合観戦、ボランティア体験
11. 20	市場開拓監の研修
11. 24	企業訪問（とうふ工房雨滝）

11. 25	鳥取県フェア視察（阪急百貨店、千里大丸ほか）
11. 26	鳥取県国際交流財団の中国語チャット・サロンに講師として参加
11. 28	因州和紙づくり体験（佐治町、青谷町）
11. 30	全農氷温施設、J A鳥取中央長芋選果場ほか訪問
12. 1	伝統工芸体験（いわみ工芸村）
12. 5	日本きのこセンター菌茸研究所訪問
12. 6	県内量販店視察（ジャスコ鳥取店、鳥取大丸、トスク、サンマート）
12. 7	若桜町活性化施設「若桜味工房」を見学
12. 8	ものづくりフェア 2006（米子市）、網代漁港、かにっこ館見学
12. 10	鳥取県国際交流財団主催の通訳講座受講
12. 11	労働雇用課の研修
12. 12	米子市若者仕事ぷらざの利用者と職場見学会に参加
12. 13	労働セミナー、高校生のための就職セミナーに参加
12. 14	大学生等就職準備セミナーに参加（鳥取環境大学）
12. 18	倉吉高等技術専門学校を見学
12. 19	鳥取三洋電機訪問、職業リハビリテーション推進フォーラムに参加
12. 23	日本伝統芸能、茂山一門の狂言を鑑賞
2007. 1. 9	産業開発課の研修
1. 16	「環日本海時代の元気な港」講演会を聞く
1. 29	企業立地課・産業開発課職員研修会に参加
1. 30	中国吉林省商務庁役人来県による随行、企業訪問（ビックツール）
2. 1	ダイキン調印式に出席、田中製作所を訪問
2. 2	観光課事業概要説明
2. 6	企業訪問（株式会社日本ライツ）
2. 9	企業訪問（鳥取三洋電機）
3. 8	先進的な貿易支援策を視察（北九州市、博多港ほか）（9日まで）
3. 14	帰国前表敬、研修修了式・送別会にて研修成果発表
3. 19	離県
3. 20	関西空港より帰国

4. 研修報告

（1）はじめに

1994年に中国吉林省と鳥取県は「友好交流に関する覚書」を締結しました。これ

がきっかけで私は幸運に恵まれ、平成18年度自治体職員協力交流研修員として日本に参りました。そして山や川、空気がきれいで大自然に恵まれた鳥取市に参りました。私はこの9カ月の研修を通して、より一層日本語が上達し、商工に関する理解が深くなるのを期待しました。

(2) 一般研修

① 来日時東京研修

5月21日、世界9カ国から53名の研修員が東京に集まり、三日間東京でオリエンテーションを受けました。また、講話を受けたり、東京証券取引所や国会議事堂を見学しました。この2日間で国際的な大都市である東京の魅力にひかれました。夜のお台場、東京タワー、秋葉原、銀座などどれも東京の繁華を呈していました。まだまだたくさん見たいところですが、これから日本語研修を受けるため、滋賀県に移動しました。

② 全国市町村文化研修所（J I A M）での日本語研修

毎日朝9時から夕方5時まで宿題やテストに追われていて、まるで学生時代に戻ったような感じがしました。「夏の思い出」という詩を先生に教わりました。この夏にJ I A Mで勉強をしたことが、私達にとっていい思い出になるようにという先生の願いからでした。みんなの努力で最後の発表会でこの詩を暗唱して、「優秀発音賞」をもらいました。嬉しい限りです。本当に良い思い出になりました。

また、2回にわたってスタディーツアーで京都の清水寺、金閣寺、二条城、琵琶湖博物館の見学や、信楽焼作りも体験しました。日本人の生活習慣、日本の食べ物そして日本のマナーをより一層理解できました。来日当初の違和感がなくなったのと同時に日本に慣れてきました。忙しいながらも楽しくてとても充実した毎日でした。

(3) 専門研修

① 全体研修

心待ちにしていた鳥取県庁での研修が始まりました。最初に県庁全体の仕組みを理解するため2週間かけて、各部署の概要説明会を聞きに行きました。各担当者がとても親切に対応してくださったので、県庁の仕組みを大まかに理解することができました。中国と違うのは、各部署の名前の呼び方ぐらいで、仕事の内容はあまり変わらないことが分かりました。

② 専門研修

商工労働部は5つの課に分かれています。私はこの5つの課と関係機関で研修するこ

とになりました。半年かけて商工行政に対する理解を深めたいと思います。

～ 産業開発課での研修について ～

経営革新支援の仕事は県内企業の創出・育成です。産学官連携による技術開発から販路開拓まで一貫した取り組みを推進したり、経営革新計画の承認も担当しています。経営革新とは、企業で新しい事業活動が生まれることです。新しい事業活動とは、企業の利益と付加価値が増えることです。企業の利益や付加価値が増えると、県の税収が増え、労働者の所得が増えることとなります。その一方、経営革新計画の承認を受けると、企業にも税の優遇措置、保証・融資の優遇措置、投資・補助金の支援措置、販路開拓の支援措置などのメリットがあります。このようにお互いにメリットがあるので、県は企業に対して経営革新計画を作るように勧めています。

「産学官連携」という名前は日本に来て初めて聞きました。最初は産学官連携の意味がよく分かりませんでした。産業と大学と行政機関が連携することだと分かりました。大学、高専等の知的財産を活用した新技術の創出を促進し、鳥取県産業の活性化を図ることがこの事業の目的です。県が鳥取県産業と研究機関のコーディネーターとして重要な役割を担っていることを実感しました。

私は知的財産を文字通りにいろいろな知的な財産の権利を守るため、特許、商標を取ることだと思っていましたが、その他に、県内の知的財産の取り組みが進むように人材育成と技術の流通を支援していました。知的財産制度に対する理解を深めるため、広く県民に向けた普及啓発や人材育成をしています。知的財産権全般にかかる窓口を県庁内に設置し、鳥取県知的所有権センターとの連携を図り、県民相談機能の強化を推進します。もっと知的財産について知りたいと思いました。

～ 経済政策課での研修について ～

総務係は商工労働部の総務として幅広い仕事に関わっています。特に予算のことです。毎年各課の予算要求書をまとめて、財政課に提出します。また議会のとき各議員さんから通告のあった質問について、関係ある部の各課に渡し、資料を作ります。私もその仕事を少し手伝いました。見た目は簡単だと思いましたが、実は細心の注意を払っていることが分かりました。

商業流通係は、まちづくり三法のうち、主に中心市街地活性化法と大規模小売店舗立地法を担当しています。市街地の整備改善として道路、住宅、社会福祉施設などを整備しています。また大型店の設置者が新增設届けを提出した場合、それに対して都道府県等が意見を提出し、その意見に対する自主的対応策を設置者が提示します。全てに悪い影響が出ない場合は県の認定をもらい、店を建てることができます。

経営支援係の主な仕事は県内にある各商工会議所と各商工会を通して間接的に中小企業に支援をすることです。鳥取商工会議所、商工会連合会、中小企業団体中央会など

を訪問することができました。商工会議所は鳥取県の各市にひとつずつあることが分かりました。商工会連合会は鳥取県にはひとつあります。名前が似ているので、少し考えてしまいましたが、担当の方から説明を受け、違いが分かりました。ただひとつ共通しているのは、中小企業にサポートをしているということです。

金融係の仕事は文字通りに金融機関と関係ある仕事、金融の支援をしています。信用保証協会はやる気がある中小企業が金融機関から事業資金の融資を受けられるよう、公的な保証人となって融資の円滑化を図る機関です。中小企業は信用保証協会に一定比率の保証料を払います。全国の信用保証協会は、中小企業者の資金調達コストの軽減や利用拡大を図り、さらなる発展を支援することを目的として、平成18年4月1日より、保証料率をそれぞれの経営状態に応じた料率に改正しました。

企画推進室の仕事は、鳥取県から生まれた文化、技術、名所などを県外にまたは外国にPRすることです。そのためにいろんな催しをやっています。9月にとっとり発ブランドファッションショーが千葉県松戸市で開催されました。グッド・ヒル、弓浜緋など5つの会社がこのファッションショーに参加しました。地元の良い商品であることを広く知ってもらうため、精一杯宣伝しました。私もモデルとして鳥取県を広めるため、ファッションショーに参加しました。その他にも、SC鳥取の宣伝に力を入れています。私も試合時にボランティアとして参加し、試合観戦できたことは良い体験でした。

～ 企業立地課での研修について ～

この課は、ワンストップサービス、企業誘致、コンタクトセンターの三つの係に分かれています。最初に企業誘致係で研修しました。企業誘致というのは、県外の企業に鳥取県に進出するように声をかけることです。声かけはコンタクトセンター係の仕事です。担当者がいろんな企業に電話をしています。非常に丁寧な言い方で相手の企業を訪問する可能性をとるため一生懸命です。得た企業の情報を企業誘致担当者に流して、はじめて企業を訪問することが出来ました。一度誘致係の山本さんと一緒に企業誘致のため、京都にある企業を訪問することができ、大変いい勉強になりました。ワンストップサービス係の仕事は進出してきた企業にサービスをすることです。例えば進出してきた企業が、工場を建てる場合は、ワンストップサービス係が、県の各部署と調整して、企業が速やかに円滑に手続きを進めることが出来るよう案内しています。それから皆さんが退社時間に仕事を終えて帰るよう努力しています。ノー残業です！ しかも、これは習慣になっていて、できるだけ勤務時間中に仕事を終え、時間通りに帰るようにされています。そして机の上に一切書類を置かないことにも感心しました。仕事の効率を上げるために本当に素晴らしい努力だと思いました。

～ 市場開拓監での研修について ～

主な仕事は、鳥取県の伝統産業を守るため、後継者を育てるための支援です。国から

指定されている鳥取県の伝統産業は、因州和紙、弓浜緋、出雲石灯籠です。県知事から認定された伝統産業は約50件あります。また販売先の開拓もしています。最近ローソンと提携することができました。また、今年5月から8月まで商品取引懇談会が開催され、62業者が参加し4事業者を正規取引商品として取り扱うことになりました。また、大丸ピーコックとも連携しています。百貨店では毎月末鳥取県フェアが開催されています。もっと広く、もっと高く、もっと売って、もっと儲けてという市場開拓監のミッションが門脇室長の話から分かりました。鳥取県産物のPRに重要な役割を担っていました。

～ 労働雇用課での研修について ～

この課は労政福祉係、職業能力開発係、雇用政策室、障害者就業支援担当の4つに分かれています。仕事はたくさんの事業に関わっているので、たくさんの勉強ができました。私は植田室長によく鳥取県の雇用政策、障害者に対する雇用政策、年金のことなど質問すると、いろいろ教えていただきました。

③ 補充研修

～ ジェトロでの研修について ～

JETRO（独立行政法人日本貿易振興機構）は、日本経済のさらなる発展に貢献することをめざす機関です。日本の地方自治、国が中小企業により良い事業をしてもらうため、多くのサポートをしており企業の活力を高め、日本経済の全体を良くする努力をしていることが分かりました。

～ 鳥取県産業振興機構での研修について ～

ここで1週間研修をしました。機構は総務企画部、経営革新支援部、企業再生支援部、販路開拓部、クラスター支援室、新事業創出部、発明協会鳥取県支部、海外支援部に分かれています。館内にある産業技術センターも見学することもできました。地元産業の振興をするため、特に中小企業をサポートしていることが分かりました。

（4）中間研修と国内研修旅行

① 東京中間研修（自治体国際化協会主催）

各自治体で研修したことを意見交換したり、交流する機会でした。集まった53人は研修分野によって、一般行政、経済交流、国際交流、商工、農林水産業、医療保健などの7つのグループに分かれました。研修中に感じた良かった事、困った事をそれぞれ意見交換しました。良かった事は、研修先の担当者のやさしさ、また研修をきっかけにた

くさんの企業訪問ができ、たくさん研修分野に対する理解を深めることができたことです。困った事は共通していて、日本の物価が高いことでした。確かに日本の物価は高いと聞いていましたが、品物によって値段も違うことが分かりました。物価の高い日本に生活しながら、自分が困らないように工夫をしています。あとは町の寂しさ、住む場所の古さなどいろいろ述べました。確かに良いところもあるし、良くないところもありますが、何よりみんな頑張ってやっていました。私も日中交流の架け橋になるため頑張りたいと思います。多分他の研修員も私と同じ考え方だと思います。

また、東京江戸博物館を見学することもできました。この研修会が終わったら、徐々に研修員は国に帰っていきます。同じ中国にいても今回限りで会えなくなる人もいます。でも、一緒に過ごした時間はとても楽しく、たくさんの良い思い出になりました。

② 中国地方海外技術研修員等合同交流事業

広島県、島根県、鳥取県の研修員と担当者合わせて20人が参加しました。

まずマツダ広島工場で、マツダの新型車や生産工程を見学しました。マツダ工場の歩みが勉強できました。生産ラインを見学して、さすが車を製造する王国、日本！と思いました。優れた技術で環境に優しく、高性能を持つ、マツダブランドが作られています。また、マツダ工場の広さや、整然としている建物などに感心しました。

それから平和記念公園などを見学しました。1945年8月6日、アメリカ軍が投下した原子爆弾は広島市を一瞬にして壊滅させました。世界に向けて人類の平和を願い訴えるため、過去の過ちを繰り返さないために、爆心地に近いここに公園が作られました。毎年8月6日午前8時15分には黙祷を捧られ、式典では平和の歌を演奏し、合唱します。人はみないつも平和を呼びかけています。私は人類にとって平和ということがどんなに重要なことかしみじみと感じました。

今回一番良かった所は宮島でした。古くから日本三景の1つに数えられるとともに瀬戸内海国立公園の一角として、特別名勝、特別史跡、風致地区、天然記念物などの指定を受けています。厳島神社は全て海の中に建っています。こんな建物が海の中に建って、本当に不思議だと思いました。島では可愛い鹿が寄ってきて、観光客の食べ物を狙ったり、鹿に追われ逃げ回る客の姿が、愉快でした。

夜の交流会では、けん玉という日本の昔の遊びを楽しむことも出来ました。翌日は、それぞれの研修についてたくさん意見交換ができました。私は司会の役をもらい、良い体験になりました。広島県でも良い思い出ができました。

③ 国内研修旅行（鳥取県国際交流財団主催）

日本文化を体験し、日本への理解を深め今後の研修に役立てることが、この旅行の目的です。

まず、浜松町から船に乗って、隅田川を上りきれいな風景を楽しむことができました。

た。風景をまだ見飽きていないうちに目的地浅草に到着しました。食事後早速浅草寺を見学しました。浅草寺といえば雷門が特徴です。記念写真を撮る人でいつも混んでいます。私達も一枚の記念写真を撮りました。雷門をくぐると仲見世通りです。多くのお土産の店が並んでいます。特に人形焼きは多くの観光客に知られています。突き当たりは浅草寺本堂です。そこで、願をかける人が大勢います。私も一つおみくじを引きました。中吉でした。少しだけ嬉しかったです。

次は、長く心待ちにしていた両国国技館です。生でお相撲さんの取組を鑑賞できました。いつもテレビで見ただけなので、今日は目の前で見られるとあってとても興奮します。相撲は日本の伝統的な文化の一つです。枱席に座ってお茶を飲みながら、取組を見ることは本当にひとつの享樂だと思いました。日本人は普段一生懸命仕事だけをする印象が強かったのですが、以外にのんびりと享樂することもできると思い、ここで中国の言葉を思い出しました。労働と休息です。意味は労働と休息をうまく結びつけることです。これができることは、本当に羨ましいことです。

夜は、東京を象徴する東京タワーへ行きました。高いタワーから眺めると夜景がとても綺麗でした。なんだか特別な雰囲気溢れて、夜の東京はとても綺麗でした。お台場が輝いていて、昼間よりも特別綺麗に感じました。暫く目の前の夜景に浸っていました。

翌日まず行ったところは、江戸風鈴作りを体験できる篠原風鈴です。江戸川区の無形文化財保持者、東京都名誉都民の篠原儀治さんとその家族が作っている風鈴です。篠原さんは先代から受け継いだガラス風鈴を昔の東京すなわち江戸で、また江戸時代から作られていたことから、江戸風鈴と名付けました。ですから、江戸風鈴は篠原さんのブランドとなることが分かりました。早速一人ずつ自分で風鈴を作ってみました。ガラスを温度1500℃の炉に入れて、柔らかくし、息を吹いて膨らませて風鈴の原型ができます。初心者私達は一人ずつ篠原さんに習いながら作りました。次に作った原型の裏側から絵を描きました。それは江戸風鈴の特徴の一つです。絵が下手な私にとって難題でした。目の前にたくさんの水彩絵の具が並んでいますがどれにしようか、迷ってしまいました。見本を見て考えました。青いトンボを描くことにしました。絵を描くことがこんな楽しく感じたのは初めてでした。描き終わったら、奥さんが糸を通して、鈴を結んで私の風鈴が完成しました。自分で作った風鈴を見て可愛いくてたまりませんでした。

次は日本銀行です。日本で唯一紙幣を発行するところです。本館、旧館地下金庫などは重要文化財に指定されています。案内に従って、中の施設をいろいろ見て、日本銀行の長い歴史が分かりました。

その後、東京都庭園美術館に行きました。1933年に完成した旧朝香宮家の邸宅を今は美術館として使用しています。中に入ると、本当にのんびりとした空間と構造でした。各部屋を見て、昔皇族の方々がここに住んでいた様子を頭の中に浮かべてみました。こんなところに住めたら、なんと落ち着くでしょう。素晴らしい庭園美術館でした。

今回の研修旅行は円満に終了しました。日本文化や経済や観光など大変勉強になり、

とても感謝しています。これからも機会があれば日本文化に触れたいと思います。

④ 日本文化体験

～ しゃんしゃん祭り ～

初めて体験するので、踊りの練習時間が毎日楽しみでした。日本の独特な踊りに興味を持ち、真剣に練習しました。金銀の短冊と約50個の鈴をつけた豪麗な長傘を手に優雅に舞う風景はとても好きです。この傘踊りは、雨乞いを起因とした「因幡の傘踊」です。しゃんしゃんと鈴の音を鳴らしながら浴衣姿で踊り始めると、本当に雨が降りました。雨の中踊ることも初めての体験なので雨に打たれても、良い気分でした。日本でこんな体験ができ、とても良い思い出になりました。

～ 狂言観賞 ～

日本文化の一つを知るため、本格的に「狂言」というもの触れることができました。日本語を勉強したときに「狂言」は日本伝統文化だと分かりましたが、実際どういったものか想像できませんでした。実際に見て理解できました。

狂言の舞台は、最初に登場する人物が決まった名乗りをして道行がある、という一定のパターンがあります。また、名も無い一市民を主役にして、日常生活での笑いをすくい取っていることや、笑いの質がドライでカラッとしている点は、能と似ています。ただ、狂言ではズッコケたり、役者が素顔に戻って笑ったりはしません。狂言師たちは決められた芝居をします。その中で生まれる笑いが狂言なのです。また狂言は会話劇です。言葉は、狂言が成立した室町時代の人たちが日常話していた言葉です。この室町口語は今の日本語の基礎になる言葉ですから、現代の私達にもとても分かりやすいものです。

狂言は伝統芸能の中でも、現代の芝居に近いスタイルだと言えるので、私は狂言を「伝統芸能」ではなく「伝統的芸能」だと思います。狂言は600年という長い年月の間に洗練され、今なお皆さんに親しんでいただける現代に息づく芸能なのです。この伝統文化を演じ続けているのは茂山一門です。かなり現代に通じる形に整っていると考えられます。ただ初めて見る私にとって、言葉は難しかったです。良かったのは事前に配られたパンフレットに上演する内容が現代語で書いてあったことです。それを読んで、内容がなんとなく分かりました。上演中観客が時々笑い出すことがありましたが、その笑う理由が分からなくて、周りに合わせて笑うこともありました。しかしちゃんと自分で理解出来て、笑うこともありました。その時はすごく嬉しかったです。「狂言」は難しいと聞いていたからです。私が好きなのは、太郎冠者と主人・大名などの服装です。日本らしさを感じます。また言葉に独特なイントネーションがあり、それも私にとって面白いことの一つでした。

(5) 終わりに

中国語には“光陰矢のごとし”ということわざがあります。鳥取県に来た時のことがまるで昨日のようでしたが、あっという間に研修期間が終わってしまいました。

研修中たくさんのことを学ぶことができました。商工労働部は幅広く鳥取県経済の活性化を担う重要な部署として役割を果たしていることが、よく分かりました。職員は一所懸命企業の声を聞き、企業のために便宜を図ってサポートをしていました。一人の職員が“私達は県民の公僕ですよ”と言われました。まさにその通りだと私も思います。

もっと感心したのは、いつも皆さんが県民からかかってきた電話に丁寧な対応をされていることや、朝礼を行う習慣など、日頃から県民に違和感を与えないようにしていることです。また、県庁では省エネのためきちんと電気、エアコン、パソコンなどを管理しています。鳥取県は日本で一番人口が少ない県ですが、知事をはじめ職員一人一人が頑張っている姿を見ることができました。鳥取県はすごいなあと思いました。鳥取県に来ることができ良かったと思いました。これからも吉林省と鳥取県の交流が続きますが、私はそれを微力ですが支えたいと思います。

最後に研修中にお世話になった鳥取県国際交流財団、商工労働部、交流推進課、ジェットロ、産業振興機構、産業技術センターの皆様のご支援、ご協力に心よりお礼を申し上げます。特に私の担当者である商工労働部産業開発課の井田さんと国際交流財団の大熊さんに改めてお礼を申し上げます。長い間お世話になりました。鳥取県で学んだことは、私の人生にとって貴重な経験であり、今後の人生にきっと生かされることでしょう。また、鳥取県と吉林省の交流がますます盛んになっていくことを何よりも期待しています。そして、お世話になった皆様と中国で再会できる日を心待ちにしております。私の研修を支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。



鳥取県産業振興機構で研修



東京旅行研修・江戸風鈴作り



県庁連しゃんしゃん祭り参加



とっとり発ブランドファッションショーに参加

県 費 留 学 生
(ブラジル)

1. 留学生プロフィール



氏 名 ルセリア ユミ イヌマル
年 齢 27歳
国 籍 ブラジル
出 身 パラナ州マリンガ市
研修分野 幼児教育

2. 研修機関の概要

機関名	鳥取大学	鳥取市湖山町南四丁目101
代表者	鳥取大学学長	能勢 隆之
指導者	鳥取大学地域学部 助教授	塩野谷 斉

3. 研修経過

月 日	研 修 内 容
2006. 4. 9	来日
4. 6	来県、鳥取県国際交流財団にあいさつ
4. 14	鳥取県文化観光局交流推進課にあいさつ
4. 15	鳥取市国際交流プラザで鳥取大学留学生のオリエンテーション
4. 20	県議会の前田宏議長にあいさつ
5. 20	北海道の浅井学園大学での日本保育学会に参加 (21日まで)
5. 30	いなば幼稚園見学
6. 9	鳥取大学附属小学校で小学生と交流 (2007年2月14日まで。月1回)
6. 10	第10回因幡の手づくりまつり記念大会に参加・見学
6. 19	NHK「まるごとワイド鳥取」に出演
7. 2	「北栄町すいか・ながいも健康マラソン」に参加
7. 7	鳥取県人会へのビデオ制作のため、片山知事にインタビュー 鳥取市国際交流プラザで他の外国人と浴衣の着付け講習
8. 6	鳥取ブラジル会の歓迎会
8. 9	保育実習直前強化合宿 (11日まで)
8. 12	鳥取しゃんしゃん祭りに参加
9. 8	上北条保育園見学

9. 19	明治小学校見学
9. 20	研修旅行（浅草周辺散策、相撲観戦、東京タワー見学、江戸風鈴作り体験、日本銀行本店見学と東京都庭園美術館の見学）（21日まで） 日系留学生中央研修会（23日まで）
9. 30	鳥取大学附属幼稚園で運動会見学
10. 4	湯梨浜町立東郷小学校交流
10. 14	鳥取大学風紋祭に留学生企画のふるまい料理と公開討論参加
10. 19	鳥取大学附属幼稚園で参与観察の打ち合わせ
10. 26	中国地方海外技術研修員合同交流事業に参加（27日まで）
11. 18	鳥取県立白兔養護学校「はくと祭り」参加
11. 19	「鳥取県青少年郷土芸能の祭典」鑑賞
11. 28	鳥取県国際交流財団倉吉事務所のチャット・サロンにて県民と交流
12. 7	鳥取大学附属幼稚園で参与観察（2007年1月11日まで。週1回）
12. 23	鳥取県立県民文化会館で“狂言を楽しむ”鑑賞
2007. 1. 13	鳥取県国際交流財団で“日本のお正月”参加
1. 26	第13回マリंगा市海外青年派遣団と交流
2. 12	鳥取大学地域学部幼児教育コース学生に、ブラジルの保育について発表
3. 14	帰国前表敬、研修修了式・送別会にて研修成果発表
3. 18	離県、帰国

4. 研修報告

はじめに

私は、大学で幼児教育学を専門とし、来日する前ブラジルの保育園に3年間勤務していました。そこで、学校をとりまくたくさんを知ることができ、ブラジルにおいて、現在の子供を育てる環境などに私は不安になりました。日本に来ることができ、学校の現状と教育の方法を学んだり、日本における一部の教育現場で研修する機会を持つことができたことをとても幸せに思い感謝しています。

日本の保育現場の文化的特徴に関する事例的研究

— ブラジルの保育者の視点から —

1 研究の目的と方法

私は大学で幼児教育学を専門に履修し、ブラジルで教員として働いていました。今でもブラジルでは学校教育を受けていない人たちの問題は懸案となっており、日本は、学校教育を受けていない人がいないと聞いていたから、日本の教育というものはどのように行われているのかと、最初に興味を刺激されたことが私が日本に来るきっかけとなりました。そのうえ、それぞれの国の社会では教育における価値観が異なります。ならば日本の幼児教育はどのような価値観で行われているのでしょうか？

私の担当の先生のおかげで、たくさんの幼稚園や保育園で鳥取大学の学生たちと一緒に活動に参加できて、日本の幼児教育について知る機会を与えられました。また、別の機会に、日本の小学校での交流にも参加することができました。

2 研究の結果と考察

(1) 見学

北海道の浅井学園大学での日本保育学会

最初、私が印象的だったのは、保育を職業とする人が全国から集まり行うイベントに参加したしたこと、北海道まで、そのイベントに参加するために遠くからも人が集まったことです。ブラジルでも幼児教育に携わる人のイベントがありますが、その地域のみで集まり行われるので、全国規模でのイベントは行われません。

イベントの最中、本やおもちゃや教育に関する物を陳列し販売していました。また、研究について、講演やプロジェクター、ポスターやビデオを使った発表が行われていました。

研究に基づく講演の内容は、児童心理学と教育の方法とカリキュラム、幼稚園と保育園の環境、保育実習に関するもので、議論考察が行われました。ビデオでの発表は研究の内容がじかに映像で写されたたので、一番分かりやすかったです。

このイベントに参加し、興味深かったことは、日本における現在の幼児教育の問題がより鮮明に分かったことです。

いなば幼稚園

いなば幼稚園は塩野谷先生が研究保育の助言をしたところで、そこに同行させてもらいました。その幼稚園は遊ぶ場所もとても広く、廊下や教室や階段など壁にたくさんの子供の絵が貼られ、とても整備されていて、子供にとっては、とても明るく楽しい気持ちになるものでした。

そこを見学した時、私は子供たちの作品を見て、先生の指導など、子供たちへ目がよく行き届いていると感じました。この幼稚園では先生が一日に行う活動を決めます。私達が見学をした時は、一つのクラスが体育の授業を行い、給食を食べ、先生が企画した活動をしました。いなば幼稚園での子供たちの行動は規則正しく、秩序よく、もちろん、それはその日の状況で、その保育方法が正しいとか正しくないとか評価できるものではありません。

確かに、日本の教育施設でのひとつの現実を見ることができたことは、私にとってはよい経験となりました。ブラジルと同様に、それぞれの幼稚園にはそれぞれの教育の方法があります。

上北条保育園

上北条保育園でも、塩野谷先生に同行し、1歳児2歳児のクラスの活動と見学をしました。1歳児のクラスは小麦粉粘土を使う活動をして、2歳児のクラスは外でたらいを使って手でハンカチを洗うという活動をしていました。ブラジルでも子供たちと小麦粉粘土を使って遊びます。私は子供たちがハンカチを洗うという活動を保育園で行うのを初めて見ました。私がブラジルに帰国した際には、子供たちと一緒にやってみるつもりです。

この保育園は、先生が活動を企画して、自分の所属するクラスで子供たちは先生が決めた活動を行い、そのクラスのみで遊びます。従って、他のクラスの子供たちと社会的に関わることはできません。

しかし、いくつかの部屋があり、その2つのクラスは給食と昼寝の時間は、やや広い同じ保育室を利用していました。そして、給食の後の時間は昼寝まで、違うクラスの子供たちが一緒に遊ぶことができ、社会的に自由に過ごすことができました。そのとき子供たちはさらに活発になり、先生は平静に落ち着いていたことが私にはとても印象的でした。

保育実習直前強化合宿

「保育総合ゼミ（保育総合演習）」の科目の三人の先生方と鳥取大学の学生達と三

日間、岡山県蒜山で合宿をしました。

この合宿で、クッキング保育として、子供と一緒にできる料理のカレーライスを作る練習をしました。カレーライスを作ることはとてもおもしろい活動でした。なぜなら、ブラジルでも子供たちと料理をする体験はしますが、私が大学生のとき、子供たちと料理をする活動や、その指導をする授業は無かったからです。

私も日本人のカレーライスの作り方を覚えたので、ブラジル人の子供たちとも作ることができると思います。また、指導案に基づいて実際に模擬保育をしました。三つのグループで保育実習のための指導案の発表をしました。指導案はテーマと目的、対象となる子供の年齢を設定して作りました。そのあと先生方のアドバイスを聞きましたが、それは大切なことでした。私にとって新しい指導方法とそのやり方も覚えることができるととても有意義でした。

指導案の次にはスタンツ（編註・出し物のこと）の発表をしました。また三つのグループで劇と音楽の踊りを発表しました。私のグループは三匹の子豚の劇でした。スタンツはとてもおもしろくて皆の創造力も感じました。私達のグループは、傘にわらわと木とれんがの絵を張り付けて子豚の家のようにしました。また子豚の耳と鼻としっぽも作りました。

スタンツの価値は発表することだけではありません。計画を実行する時のグループの協力がとても大事だと思いました。

スタンツの準備のときに他の学生達とも親しくなれて、私の教員として培った経験を学生達と分け合うことができ、とてもうれしかったです。

倉吉東保育園

合宿の時に、倉吉東保育園を見学しました。園長先生が私達に対応をしてくれて私達に保育園の現状の説明をした時、「ブラジル人や、フィリピン人や、中国人などの外国人の子供がこの保育園にいます」と言われました。保育園を見た時にそのブラジル人の子供と出会いました。私はこの子供と少しポルトガル語で話しをしましたが、その子供は恥ずかしいのか、わからないのか、にこにこ笑って何も答えませんでした。ところが、日本語で話しかけたら喜んで答えました。この子は5歳で母親はブラジル人で父親が日本人です。

保育園を見学した時にたくさんの先生方が子供たちと一緒にプールに入って遊んでいました。ブラジルの保育園ではプールがないので、先生と一緒にプールで遊ぶことはありません。倉吉東保育園は川の近くにあるので、川岸で先生と子供達が砂遊びや水遊びをしていました。広く明るい静かな自然環境の中で、子供達が皆、喜んで遊ぶ様子を初めて見て、私はすばらしいと感じました。

この日、私は他の三人と一緒に5歳児のクラスの見学もしました。子供達と記憶の

ゲームをして先生が絵本を読むのを一緒に聞きました。保育室を見て大勢の園児にはちょっと狭いと思いました。しかし、よい悪いではなく、これもまた保育園の現状です。

(2) 参与観察

鳥取大学附属幼稚園参与観察

ブラジルの幼児教育システムは2つのタイプに分けられます。1つ目は卒園後のための進学準備にむけて先生が中心に授業の内容を強調していくもので、もう一つは子供の社会性を高めるために、様々な遊びの中で、自由な行動で、自主的に、創造性を養うという保育です。

日本の幼児教育をより理解するために、幼稚園教育要領に基づいて自由保育を行う先生がたの指導方法を探求して、子供に及ぼす遊びの影響を研究しました。

研究の方法は、子供たちに対する指導の様子を参与観察し、同時に写真で記録しました。週に一度、1日に5時間の参与観察を1カ月半行いました。幼稚園の現状をより良く分かるために日替わりで参与観察するクラスをかえました。

この幼稚園の大きな特徴として、「自由な遊びが幼稚園の日常にある」ということがあります。園児が幼稚園に来てから帰るまでのあいだ、主に自由な遊びをすることができるとのことです。家具の形状も子供に使いやすいもので、配置も子供にとって便利な場所に置かれ、遊具、設備やいろんな保育室と外部のスペースや場所は、自由な遊びができるようになっています。部屋のドアはいつも開いていて、3歳児と5歳児の子供は自由にどこにでも行くことができ、子供たちはたくさんの種類の事や、さまざまな年齢の子供と先生（時には親も一緒です）と一緒に遊ぶことができます。

子供たちは、年齢層に分かれてそれぞれの保育室がありますが、自由に思い通りのところへ行くことができ、いろいろな活動をすることができます。例えば、男の子の場合、ある子供は紙を丸めてチャンバラ遊びをしていたり、またある子供は牛乳パックで車を作って遊んでいたりと、また他の子供は紙と廃品でピストルを作って遊んでいたりと、女の子の場合は花や他のものを作って遊んでいたりとなどです。一つの遊びと活動はしばしば繰り返され、グループが形成されます。遊びの楽しみは常にそこにあります。私が見たひとりの子供が、新聞折込広告とひもとセロテープで、けんだまのようなものを作ったとき、別のひとりの子供がそれを手伝おうとしました。先生がそのおもちゃを見た時、「すてき！」と言い、それを手伝っていた子供はとても喜び、感動していました。そして物を一緒に製作する喜びを分け合いました。ほとんどの子供達は他の子の遊ぶ様子を見て、自分の遊びをやめて、そこへ一緒に遊びに行きます。その後、もとの遊びに戻ります。男の子は相撲やヒーローごっこなどが一番大好きな

遊びのようです。女の子は物を作る遊びが中心で、折り紙と小麦粉粘土で食べ物を作ります。また、お母さんごっこをしたり、お店やさんごっこや、ままごと遊びをします。また、他の子供が遊んでいる様子を見るのが好きな女の子もいます。

この幼稚園には、男の子と女の子が一緒に遊ぶために、木でできた大きな積み木がおいてある部屋がありました。その積み木を積んで、男の子は上に登るために少し危ない遊びをします。女の子は家のようなものを作ります。この部屋を子供たちがよく利用します。私は、そのような部屋も大きな積み木も見たことが無かったです。

この幼稚園は遊びのひとつとして、子供に簡単な料理を教えます。たとえば、やきいもを作ることなどです。ブラジルでも子供と一緒に料理を作ることがありますが、先生が指導し子供とみんな一緒に作ります。この幼稚園では、子供の興味でやりたいように自分でサツマイモを濡れた新聞に包み、アルミホイルを巻き、バケツにそれを入れ、炭で火をたいて焼きました。

この幼稚園では大人の干渉はあまり無く、子供の行動を尊重しています。先生の役目は、子供が遊ぶ環境を作ること、子供の面倒を見て子供の遊びの要求に応じるようにしています。子供は自由に幼稚園を歩きまわり、先生達はほとんど同じ場所において、子供たちをいつも見ていることでサポートしていました。私がかつてブラジルで知っていた現状とはとても違うものでした。ブラジルでは、子供たちは部屋の中で先生と一緒に居て、先生の決めた予定通りの活動をしていたからです。

私が、参与観察をした時、子供たちは大きな積み木でお店の様子を作ったり、折込広告の紙でお菓子を作ったり、特別な穴あけパンチで紙にクリスマスツリーの形を切り出して、お金の代わりに使ったりしました。そして、大きい声でお菓子をお客さんに提供しました。先生は子供たちと一緒にお金を作ったり、お客さんと店員のまねをしたりして、子供たちをサポートしました。

私が先生に「文字の読み方と書き方は教えることにしているのですか？」と尋ねると、先生は「子供たちはロッカーに張ってあるそれぞれの子供の名前の書かれた紙(シール)を見ながら文字を覚えます。もし子供がもっと興味をもてば、本に書かれていることを見て、自分から先生に質問してきます。」とおっしゃいました。ブラジルでは、文字を教えることは小学校に入ってからなので、幼稚園に通う子供に言語を教えることは勧められません。しかし、親の考えかたでは、子供に文字を教える幼稚園が良いようです。この理由と他の理由もあり、時々幼稚園は子供に文字を教えます。特に、小学校に入学前の子供達に教えます。

教育のシステムには、社会の集団的な特徴が必ずあると気がつきました。時に子供はグループに属することに気がつきます。例えば、一人の子が始めている遊びに別の子供が入りたくなったら、遊びを始めたその子供達に「入れて」と言います。

欧米の社会より日本の社会は原則や秩序に従うという特徴があります。ブラジルの子供と比べて、日本の4歳児や5歳児は遊びのルールを秩序正しく行います。そのこ

とは、日本の社会の文化の再生産です。ルールをきちんと守るといふことの理解です。例えば、電車は規定どおり時間正しく発着することや、家族や、お店、工場、学校などすべて社会で約束の時間はきちんと守られるといふことです。行動する際に原則や秩序を守る文化から、日本人はルールを守る価値観が簡単に身に付きます。ブラジルの社会では、組織的に原則やルールを守るといふことは、重要視されません。交通ルールでは信号や、学校の始業終業時刻や、約束はいつも正確に守られません。その態度は、組織でルールをきちんと守らないという特徴は、子供の遊びの時間のなかにも表れます。日本では、ルールでは片付けの時間になったら子供たちは、素早く遊んでいた場所の片付けを始めます。このことについては、私の経験では、ブラジルの子供たちには、時間がきたら片付けを素早くするといふことにはもう少し時間がかかります。

それぞれの教室では、子供たちが本を読むことが自然と好きになるように本を読むコーナーに本が設置されています。物の作り方の絵本や、自然と世界の文化についての本、また、おりがみの折り方の本もあり、その折り紙の本を子供はよく読んでいました。教室に置かれた本の他にも、この幼稚園にはたくさんいろいろな種類の本が準備された図書館もありました。私は、その図書館に2人のボランティアの保護者がいて、子供が来たときに絵本を読んだり、見せたりしていたことが特に印象的でした。ブラジルでは、小学校の先生や幼児教育を行う先生達の間では、子供が本を好きになるかといふことが問題です。私がブラジルで働いていた保育園にも色々な絵本の置いてある図書館があり、子供たちに絵本を借りさせて家に持って帰ったりさせました。しかし、図書館に大人がいないのでそこに自由に子供たちが出入りしませんでした。

折り紙は、日本独特の文化で、子供がしていた活動のなかにもありました。私が毎日していた参与観察では折り紙の本を使って折り紙を扱う様子を見ました。私は3歳の子供たちが本を見てその説明どおり慣れた手つきで折り紙を折る様子に感心しました。ブラジルでも折り紙を扱うことはありますが、器用に折ることがあまりできません。

遊びにも国の伝統的なものがたくさんあります。お正月があけて最初の授業に先生はこま遊び、お手玉、カルタ遊びをさせました。先生は、そのおもちゃでどのように遊ぶかを説明をして、子供にそのおもちゃはお正月に遊ぶものだと教えました。

この幼稚園では保護者と園の結びつきも印象的でした。運動会と、クリスマスの飾りつけ、もちつきにほとんどの親が参加していました。クリスマスの飾りつけともちつきの時に、保護者と幼稚園は一緒に計画を立てましたが、当日は、さらに親は協力的でした。園長先生と副園長先生たちは親に協力して、園児と先生達が参加しました。私が働いていた保育園では園児の送り迎えと保育園が行うイベントの時のみ保護者が参加しました。この幼稚園では、ボランティアで行事の手伝いや行事にすすんで参加している保護者が多いことに私は気がつきました。私が知っているブラジルの現実

と比べたら、私がかつて働いていたところは保育園でしたからもちろん、幼稚園より親は自主的に行事に参加したりすることがあまりできません。

日本の幼稚園では広い保育室で物が機能的に使われるように置いてあり、ままごと遊びや構成遊びや作業する場所のコーナーなどがあり、ブラジルの保育室には、たくさん机と椅子があるということが違います。積み重ねられた椅子は、壁ぎわに置いてあり、食事と必要な時には立てて使います。椅子が必要となり作業する時に、テーブルを守るためにテーブルの上にテーブルクロスをのせたり、棚の中には子供がいつでも自由に使うことができるように紙、はさみ、いろいろな色のテープ、マジックペンが入っています。私の勤務していた保育園では、子供が自由に文房具を使うことがありませんでした。これらの物は自由に使ってよいものですが、子供達はそれらを大事に無駄にせずに使っていました。この幼稚園ではそれらの物はまた使うことができるように棚にしまわれていました。

棚には、それぞれの文房具を入れてある場所が子供たちに分かるように明記してあり、また、取り出しやすい配置で置いてあり、それによって、子供たちは自分たちの使いたいものを取り出して使うことができます。子供たちは保育室に入るとすぐに、走ってそのコーナーに行ったり、また、外へ遊びに行ったりします。

食事の後、先生達は10分ほどで机を片付け、ほうきで部屋をすべてきれいに掃除しました。ブラジルでは、保育室の掃除は保育園が依頼した業者が担当しています。

子供達が幼稚園から帰った後の時間は、保育室に残り、先生達は園内の環境を整えたり、次の日にむけて授業の準備をします。そのほかに、副園長先生とすべての先生達が集まり、そこで大切なミーティングを行います。

ブラジルにあるように、ブロックや分類分けして遊ぶおもちゃやチェスやオセロ盤ゲームなどのルールや筋道にそって頭を使うゲームは見られませんでした。日本では手で扱い、積み重ねるものや組み立てるものなど、団体で遊ぶ種類のおもちゃが多かったです。それらの物の中で積み重ね遊びや組み立て遊びに利用されるのは、積み木、牛乳パック、コップ、紙、マジックペン、のり、いろいろな色のセロテープ、粘土などがありました。また、いろんな種類や大きさのバケツとスコップと水など砂で遊ぶためのおもちゃもありました。三輪車、フラフープ、平均台、滑り台、ブランコなどの体を動かすための遊具などがありました。縄、こま、羽根つき、相撲、ハンカチ落としなど伝統的な遊びのおもちゃもあります。その他には、この幼稚園には、それぞれの保育室に水槽があり、小屋には兎も飼育していました。ブラジルの保育園には水槽も兎小屋もありません。

(3) まとめと今後の課題

参与観察をしたことによって、私はブラジルと日本の幼児教育の違いについてたく

さんのことに気がつきました。この違いはそれぞれの社会と文化の現実の違いからも示されます。この違いには、私がブラジルで教員の時に経験した問題も踏まえて、参与観察をした際に、様々なケースを扱ったことで感じました。また、教育現場の先生としての役割についての考え方も、参与観察をする以前とは変わりました。

日本の幼稚園と保育園で参与観察の機会を持つことができ、私はたくさんの事に触れることができとてもうれしく思いますが、同時に、日本に住んでいるブラジル人の幼児教育の現実について心配の念を覚えました。なぜなら、たくさんの日本で住むブラジル人の子供たちは、日本での幼稚園や保育園の教育を既に受けていて、帰国した後、日本とは異なる教育システムのブラジルで教育を受けます。私は今後もこの問題について研究を続けていきたいと思っています。



保育実習直前合宿で



鳥取大学附属小学校の児童たちと



しゃんしゃん祭りに参加



鳥取大学の先生方と

名 簿

海外技術研修員

年 度	国籍・出身地	氏 名	性別	研修内容	研修先
1988 (昭和 63)	ブラジル	中原 清治 パウロ	男	農地灌漑	鳥取大学農学部
1989 (平成元)	ブラジル	伊藤 誠 パウロ	男	園芸 (果実処理 技術)	鳥取大学農学部
		山根 猛 セルジオ	男	コンピュータ ・システム	鳥取大学工学部、鳥取県情報センター
1990 (平成 2)	ブラジル	伊藤 万里夫	男	歯科治療	県立中央病院
		河上 リジア ベロニカ	女	理学療法	皆生小児療育センター
1991 (平成 3)	ブラジル	西尾 リナ 佳代子	女	建設設計	米子工業高等専門学校
		菊留 恵 ルシア	女		
1992 (平成 4)	ブラジル	河上 ファビオ 竹一	男	システム工学	鳥取大学工学部
1993 (平成 5)	ブラジル	門脇 エジソン	男	農業分析化学	鳥取大学農学部
		加藤 モニカ みち子	女	グラフィック ・デザイン	米子工業高等専門学校
1994 (平成 6)	ブラジル	細田 眞一 エルシオ	男	果樹栽培	鳥取大学農学部
		米原 ルシアーナ	女	海水魚栽培	県水産試験場
1995 (平成 7)	ブラジル	加藤 ベロニカ あけみ	女	歯科治療	県立中央病院
		河上 マリシー	女	企業経営	鳥取ガス
	中国吉林省	林建華 (リン ジェンホフ)	女	衛生行政	県医務薬事課
モンゴル中央県	ダグワドルジ バトバヤル	男	地方行政	県市町村振興課	
1996 (平成 8)	ブラジル	河井 美智恵 ルシアナ	女	臨床検査	県立中央病院
	中国吉林省	沈在成 (チン ザイチェン)	男	商工行政	県商政課
1997 (平成 9)	ブラジル	西坂 マルリ れいか	女	会計事務	中尾税経事務所
		吉田 ますみ ルシー	女	歯科治療	県立中央病院
	中国吉林省	陳香林 (チン シャンリン)	女	商工行政	県商政課
	モンゴル中央県	バヤルバト ボルドバートル	男	行政一般	県市町村振興課
1998 (平成 10)	ブラジル	中尾 ソランジェ	女	広告一般	デザインスタジオ石山
	中国吉林省	曹仁秋 (ツァオ レンチュウ)	男	商工行政	県商政課
		杜 軍 (ドゥ ジウン)	男	環境行政	県衛生研究所
	モンゴル中央県	バルガルスレン エルデネバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
ツェレンドルジ アリマントヤ		女			
1999 (平成 11)	ブラジル	岩水 ミリアン 恵美	女	食品加工	大伸水産
		高橋 クリスティーナ 理恵	女	広報・報道	新日本海新聞社
	中国吉林省	玉冬輝 (ワン ドンフィ)	男	商工行政	県商政課

1999 (平成 11)	モンゴル中央県	トゥグスオチル バヤルフー	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及センター
		ソソルバラム ウラーンツェグ	女		
2000 (平成 12)	ブラジル	西森 由美香	女	歯科治療	県立中央病院
		山本 リア	女	土木	県管理課
	中国吉林省	崔成岩 (ツウイ チョンヤン)	男	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	エレンダワー ガンボルド	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ナワンバルダン トウムルトヤ	女		
2001 (平成 13)	ブラジル	大原 高取 ビビアネ	女	宣伝・広告	鳥取県産業技術センター
	中国吉林省	呉英蘭 (ウ イェンラン)	女	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	チオイジャムツ バヤラー	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ソンドイ ウランチメグ	女		
2002 (平成 14)	ブラジル	エリカ サナエ カゲヤマ	女	建築	杵村建築設計事務所、米子工業 高等専門学校
	パラグアイ	谷口 まゆみ	女	情報技術	エコシステムクリエイター
	中国吉林省	許長春 (シウ チャンチュン)	男	環境	県衛生環境研究所
		郭大衛 (クオ ターウェイ)	男	商工行政	県経済交流課
	モンゴル中央県	スレンホルロ ガンチメグ	女	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、八頭 農業改良普及所
		バトジャルガル ツォグトサラ ン	男		
2003 (平成 15)	ブラジル	エリカ ナオミ カトウ	女	環境	県生活環境部
		ルシアナ ケラ	女	都市設計	県環境政策課、白兔設計事務 所、鳥取環境大学
	中国吉林省	李守祥 (リ シュショウ)	男	環境	県環境政策課、衛生研究所
		朴 晟 (ピャオ シュン)	男	商工行政	県経済交流課
	モンゴル中央県	ダシゼバグ チョルーンツェツ ェグ	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 大学農学部
2004 (平成 16)	ブラジル	ジナー サユリ イワミズ	女	建築設計	鳥取環境大学
	モンゴル中央県	オンゴードイ ムンフトヤ	女	農業	農業大学校、園芸試験場
2005 (平成 17)	ブラジル	サンドラ アケミ ナリタ	女	報道	新日本海新聞社等
	モンゴル中央県	ウダバルバダム エルデネバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場

中国河北省技術研修生

年度	氏名	性別	研修内容	研修先
1992 (平成 4)	臧恩宝 (ズァン エンバオ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門校
1993 (平成 5)	何利華 (ホ リーホァ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門校
	王 軍 (ワン ジュン)	男		

中国河北省農林漁業研究者

年度	氏名	所属	性別	研修内容	研修先
1988 (昭和 63)	殷録閣 (イン ルーコウ)	水産研究所	男	栽培漁業	栽培漁業試験場
	何建平 (ホー チンピン)	秦皇島市畜牧水産局	男		
1989 (平成元)	閻乃庚 (エン ダイコウ)	農林科学院	男	果樹栽培	果樹野菜試験場
	李光照 (リ グァンジャオ)		男		
1990 (平成 2)	焦長明 (チャオ チャンミン)	農林科学院	男	生物工程	果樹野菜試験場
1991 (平成 3)	程増書 (チョン ゾンシュ)	農林科学院	男	生物工程	果樹野菜試験場
	高延庁 (ガオ イェンティン)	河北省林業局	男		
1992 (平成 4)	張麗潔 (ジャン リジェ)	農林科学院	女	果樹栽培	園芸試験場
	崔 洋 (ツイ ヤン)		男	生物工程	鳥取大学
1993 (平成 5)	吐永清 (トゥ ヨンチン)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
	曾憲坤 (ゾン シェヌクウス)	永清県林業局	男	砂地果樹	
1994 (平成 6)	高志傑 (ガオ ジジェ)	農林科学院	男	野菜栽培	園芸試験場
	張素芳 (チャン スーファン)		女	土壤肥料	農業試験場
1995 (平成 7)	斉秀菊 (チィ シウジュ)	農林科学院	女	野菜病害防除	園芸試験場
1996 (平成 8)	高林森 (ガオ リヌセヌ)	農林科学院等	男	甘柿栽培	園芸試験場
	高延庁 (ガオ イェンティン)		男	花き栽培	
	溢春秀 (イ チュヌシウ)		女		
	及 華 (ジィ ホァ)		女		
1997 (平成 9)	孫嵐国 (スヌ ラヌグオ)	農林科学院	男	果樹栽培	園芸試験場
1998 (平成 10)	楊建波 (ヤン ジェヌボ)	大名県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場
1999 (平成 11)	姜玉生 (ジャン ユイション)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
2000 (平成 12)	李克健 (リ コウチン)	曲陽県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場
	王明秋 (ワン ミンシュウ)	農林科学院	男	野菜栽培	
2001 (平成 13)	馮樹亮 (フォン シュリアン)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2002 (平成 14)	鄭 礼 (チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2003 (平成 15)	鄭 礼 (チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場

中国河北省農業研修生・緑化研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家	
1987 (昭和 62)	団長	邱濟民 (テイ ジーミン)	男	果樹栽培	東伯郡関金町 山本守夫氏	
	副団長	王国華 (ワン グォホァ)	男	野菜栽培	倉吉市 河本増雄氏	
	団員	高延庁 (ガオ イエンティン)	男	果樹栽培	東伯郡東伯町 河本茂氏	
		張風栄 (ジャン フォンロン)	男	花き栽培	気高郡鹿野町 今本徹氏	
1987 (昭和 62)	団員	王迎濤 (ワン インタオ)	男	果樹栽培	倉吉市 田中秀人氏	
1988 (昭和 63)	団長	張連仁 (ジャン リエンレン)	男	果樹栽培	倉吉市 福井光隆氏	
	副団長	韓振延 (ハン ジェンイエン)	男		東伯郡関金町 山本守夫氏	
	団員	王 強 (ワン チァン)	男		東伯郡赤碕町 石賀昭一氏	
		彭進友 (ボン ジンイォウ)	男		倉吉市 松本俊一氏	
1989 (平成元)	団長	邢永才 (ジン ヨンツァイ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡中山町 井上智光氏	
	団員	梁義春 (リャン イーチュン)	男		農業大学校、西伯郡会見町 赤井利幸氏	
		徐東端 (シュイ ドンドァン)	男	野菜栽培	農業大学校、倉吉市 上村富士雄氏	
		蔣喜田 (ジャン シーチァン)	男		農業大学校、東伯郡大栄町 梅津良善氏	
1990 (平成 2)	団長	王振一 (ワン ジェンイ)	男	果樹栽培	農業大学校、倉吉市 大野俊一氏	
	団員	周延文 (ジョウ イァンウェン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡北条町 石川孝平氏	
		劉福辰 (リュウ フウチェン)	男	畜産	農業大学校、東伯郡東伯町 川本正一郎氏	
1991 (平成 3)	団長	楊大宇 (ヤン ダユイ)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木初巳氏	
	団員	張少飛 (ジャン シャオフェイ)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏	
		高林森 (ガオ リンセン)	男	イチゴ	農業大学校、気高郡青谷町 田中正人氏	
		吳鉄園 (ゴ ティエユァン)	男	果樹 (機械)	農業大学校、八頭郡八東町 秋山宏樹氏	
		席会民 (シィ ホォイミン)	男		農業大学校、八頭郡郡家町 小林洋吉氏	
1992 (平成 4)	団長	高玉軍 (ガオ ユイジュン)	男	果樹栽培	農業大学校、米子市 前田貢氏	
	団員	謝曉亮 (シェ シャオリアン)	男		農業大学校、西伯郡淀江町 綾木健一氏	
		魏建国 (ウェイ ジェングォ)	男		農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏	
		段丙武 (ダァン ビンウ)	男		農業大学校、西伯郡名和町 岩井宰氏	
		胡英輝 (フウ インホァイ)	男	野菜栽培	農業大学校、日野郡溝口町 遠藤達也氏	
1993 (平成 5)	団長	白韶雪 (バイ シャオシュエ)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東郷町 森田久好氏	
	団員	丁振京 (ティン ジェンジン)	男		農業大学校、東伯郡関金町 藤井一良氏	
		魏建秋 (ウェイ ジァンチィウ)	男		農業大学校、東伯郡赤碕町 入江重吉氏	
		李志強 (リ ジィチァン)	男		酪農	農業大学校、東伯郡東伯町 徳丸安男氏
		李躍進 (リ ユェジン)	男		砂丘園芸	農業大学校、東伯郡北条町 枅田富裕氏

1994 (平成 6)	団長	張曉義 (ジャン シアオイ)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
	団員	王 忠 (ワン ジョオン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
		陳 雪 (チェン シュエ)	男		農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明俊氏
		榮 新 (ルウオン シン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 山根徳之氏
		邵吉祥 (シャオ ジシアン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
1995 (平成 7)	団長	孫風国 (ジュン クニコ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡大山町 提嶋勇治氏
	団員	鮑紀剛 (バオ チークアン)	男		農業大学校、西伯郡会見町 赤井剛毅氏
		団員	張 威 (チャン ウィ)	男	野菜栽培
	趙志軍 (チャオ チージュン)		男	野菜栽培	農業大学校、米子市 福島康孝氏
	千海良 (ユ ハイリヤン)		男	畜産栽培	農業大学校、西伯郡名和町 谷永憲雄氏
1996 (平成 8)	団長	馬建秋 (マー チェンチュウ)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡関金町 藤井一良氏
	団員	曹海峰 (ツァオ ファンフェン)	男		農業大学校、東伯郡東伯町 岩本典行氏
		楊金昭 (ヤン チンチャオ)	男		農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏
	団員	崔増力 (ツツイ チェンリ)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 山下正美氏
		馬国平 (マー クオピン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 森本真樹男氏
1997 (平成 9)	団長	劉 偉 (リュウ ウェ)	男	果樹栽培	農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
	団員	張孟傑 (ハン モンジェ)	男		農業大学校、八頭郡八東町 木原剛嗣氏
		祈建増 (チイ ジェンゾン)	男		野菜栽培
		姚聖軍 (ヤオ ションジュン)	男	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏	
		張加国 (ジャン ジリアグオ)	男	甘柿	農業大学校、八頭郡郡家町 野田稔氏
	1998 (平成 10)	団長	張志安 (ジャン チアン)	男	果樹栽培
団員		韓 偉 (ハン ウェイ)	男	農業大学校、西伯郡名和町 米沢誠一氏	
		封志平 (フウ チィピン)	男	甘柿	農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏
		丁雪京 (ディン シュエジン)	男	野菜栽培	農業大学校、境港市 渡部武治氏
		趙利波 (チャオ リーブウ)	男		農業大学校、西伯郡中山町 秋田実氏
		崔良龍 (ツイ リヤンロン)	男		農業大学校、日野郡日南町 池田尚弘氏
1999 (平成 11)	団長	呉炳奇 (ウー ジュンウエン)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏
	団員	高俊文 (カオ ジュンウエン)	男		農業大学校、東伯郡赤碕町 田中哲馬氏
		尼群周 (ニー チュンチョウ)	男	甘柿	農業大学校、東伯郡東郷町 福本巧氏
		武 斌 (ウー ビン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 梅津博文氏
		王海東 (ワン ハイドン)	男		農業大学校、東伯郡東伯町 小前二郎氏
		蔣丙文 (ジャン ビンウエン)	男		農業大学校、倉吉市 大野俊一氏

2000 (平成 12)	団長	魏建国 (ウェイ ジェンゲー)	男	果樹栽培	農業大学校、八頭郡八東町 秋山宏樹氏
	団員	馬海国 (マ ハイグー)	男		農業大学校、気高郡青谷町 長谷川義博氏
		楊端剛 (ヤン ルイガン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷廣太郎氏
		魯 明 (ルー ミン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡郡家町 毛利克征氏
2002 (平成 14)	団長	王春龍 (ワン チュンロン)	男	林業	鳥取県山林樹苗協同組合、林業試験場
	団員	肖 鋒 (シアウ フォン)	男		
		于小軍 (ウイ シアオジュン)	男		
		王鉄峰 (ワン ティエフォン)	男	畜産	鳥取県畜産振興協会鳥取放牧場河合谷分場、畜産試験場
龔志勇 (グワン チューユン)	男				
2003 (平成 15)	団員	楊耀耀 (ヤン ヤオホイ)	男	林業	鳥取県森林組合連合会、鳥取県森林管理署、鳥取県山林樹苗協同組合
		呉 濤 (ウー タオ)	男		
		柳全芬 (リュ チュワンフェン)	男	畜産	倉吉家畜保健衛生所、鳥取県畜産農業協同組合、大山乳業農業共同組合
		高衆迎 (カオ チュンイン)	男		

中国黒竜江省農業研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家
1995 (平成 7)	団長	梁桂誠 (リヤン クイチュン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
	団員	牛明君 (ニウ ミンチュン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
		李光印 (リ コワンイン)	男	稲作・果樹	農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明敏氏

韓国江原道行政実務研修生

年 度	氏 名	性別	研修内容	研修先
1993 (平成 5)	崔炯奎 (チェ ヒョンギユ)	男	地方行政	県市町村振興課
1994 (平成 6)	金星鎬 (キム ソンホ)	男	地方行政	県市町村振興課
1995 (平成 7)	李昇燮 (イ スンソップ)	男	行政管理	県職員課
1996 (平成 8)	朴根泳 (パク グンニョン)	男	地方行政	県市町村振興課
1997 (平成 9)	鄭官容 (チョン グァンヨン)	男	行政一般	県環境政策課
1998 (平成 10)	李搦烈 (イ グンニョル)	男	文化行政	県教育委員会文化課
1999 (平成 11)	白昶錫 (ベク チャンソク)	男	行政一般	県市町村振興課
2000 (平成 12)	安鏞辰 (アン ヨンジン)	男	農業行政	県生産流通課
2001 (平成 13)	鄭丞弼 (チョン スンピル)	男	行政一般	県市町村振興課
2002 (平成 14)	金光善 (キム グァンソン)	男	農林行政	県農林水産部
2003 (平成 15)	盧希宣 (ノ ヒソン)	女	農林行政	県農林水産部
2004 (平成 16)	姜熙星 (カン ヒソン)	男	行政一般	県総務部

自治体職員協力交流研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1996 (平成 8)	ベトナム	グエン キム フォン	男	商工行政	県商政課
1997 (平成 9)	ベトナム	レ バン クイ	男	商工行政	県商政課
1998 (平成 10)	韓国 (江原道)	金東旭 (キム ドンウク)	男	観光行政	県観光課
	マレーシア	モハット ノール ハシム	男	行政一般	県国際課
1999 (平成 11)	韓国 (江原道)	黄貞淑 (ファン ジョンスク)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王 震 (ワン シャア)	女	環境	県衛生研究所
2000 (平成 12)	韓国 (江原道)	全珍杓 (チョン ジンピョ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	趙 青 (ジャオ チン)	女	環境	県衛生研究所
2001 (平成 13)	韓国 (江原道)	金美慶 (キム ミギョン)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王立群 (ワン リチュイン)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2002 (平成 14)	韓国 (江原道)	林泰虎 (イム テホ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王宏偉 (ワン ホンウエイ)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2003 (平成 15)	韓国 (江原道)	元鴻植 (ウォン ホンシク)	男	福祉行政	県福祉保健課
		南鎮宇 (ナム ジンウ)	男	環境行政	県生活環境部
2004 (平成 16)	韓国 (江原道)	姜炯希 (カン ギョンヒ)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	徐 波 (シュウ ボウ)	男	商工行政	県経済交流課
2005 (平成 17)	中国 (吉林省)	李艳苹 (リ イェンピン)	女	商工行政	県経済交流課
	中国 (河北省)	張 碩 (チャン シュオ)	男	環境行政	県環境政策課

外務省長期青年招聘事業研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1995 (平成 7)	モンゴル	ヤンザン セレンゲ	女	商工行政	県商工振興課
1996 (平成 8)	ミャンマー	ミン イン セイン	女	商工行政	県商政課
1998 (平成 10)	ミャンマー	コ コ ナイン	男	商工行政	県商政課
1999 (平成 11)	ベトナム	グエン タイ ビン	男	文化振興	県文化振興課
	カンボジア	サーン ビルナー	男	商工行政	県商政課
2000 (平成 12)	ミャンマー	ナン キン ヌ	女	文化振興	県文化振興課

国際協力機構（JICA）自治体連携研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1999（平成 11）	モンゴル（中央県）	バルジンニヤム デルゲルツォグト	女	循環器科医療	県立中央病院
2000（平成 12）	モンゴル（中央県）	イシ オコンチメグ	女	内科・産婦人科医療	県立中央病院
2001（平成 13）	モンゴル（中央県）	ジンベー ビンバジャブ	女	脳神経外科・脳神経 内科医療	県立中央病院
2004（平成 16）	モンゴル（中央県）	スヘー オコンツェツェグ	女	産婦人科医療	県立中央病院

ブラジル県費留学生

年 度	氏 名	出身市町村 (旧 名)	性別	大学等	学 部	専 攻
1965（昭和 40）	山添 勝子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部	
1966（昭和 41）	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理
1967（昭和 42）	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理
1968（昭和 43）	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育
1969（昭和 44）	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育
	山添 美智子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部	農村社会
1970（昭和 45）	鈴木 陽子	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	建築
	伊木 信子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育
1971（昭和 46）	成田 敬	米子市	男	鳥取大学	教育学部	産業概論
	明德 薫	琴浦町 (東伯町)	男	鳥取大学	工学部	地域計画
1973（昭和 48）	加藤 ルイザ	北栄町	女	鳥取大学	教育学部	教育制度
	加藤 輝子 ネリー	(北条町)	女	鳥取大学	教育学部	障害児教育
1974（昭和 49）	平 ネウザ	日野町	女	鳥取大学	教育学部	国際貿易
	松下 美智子 エレーナ	八頭町 (船岡町)	女	鳥取大学	教育学部	社会福祉
1975（昭和 50）	徳尾 リリア 淑子	日南町	女	鳥取大学	医学部	労働医学
	加藤 早苗 アンナ	北栄町 (大栄町)	女	鳥取大学	教育学部	日本語
1976（昭和 51）	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築
1977（昭和 52）	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築
	渡部 輝子	境港市	女	鳥取大学	教育学部	日本文化・教育制度

1978 (昭和 53)	竹内 綾子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育
	前原 一禮	米子市	男	鳥取大学	農学部	農業経営
1979 (昭和 54)	平木 育子	米子市	女	鳥取大学	医学部	小児科
	岩本 増典	三朝町	男	鳥取大学	医学部	婦人科
1980 (昭和 55)	高見 ロウルデス 早苗	倉吉市	女	鳥取大学	医学部	細菌学
	菊留 暁美	三朝町	女	鳥取大学	教育学部	心理学
1981 (昭和 56)	伊藤 清美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	教育学部	栄養学
	山下 八重子	三朝町	女	鳥取大学	工学部	地域計画
1982 (昭和 57)	平木 悦子	米子市	女	鳥取大学	医学部	産婦人科
	孝美 アメリカ 美知江	倉吉市	女	鳥取大学	工学部	電機計算機
1983 (昭和 58)	霜田 美夕起	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	医学部	難聴治療
	橋浦 富代	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	地理学、自然科学
1984 (昭和 59)	岩本 デニゼ	三朝町	女	鳥取大学	工学部	都市計画
	岩本 エリーゼ 明己		女	鳥取大学	医学部	歯科
1985 (昭和 60)	加藤 五月 デイジー	鳥取市	女	鳥取大学	教育学部	現代日本語基礎教授法
	糸田 クリスティーナ 愛子	若桜町	女	鳥取大学	医学部	ウイルス学
1988 (昭和 63)	武田 さつき ジュリア	伯耆町 (溝口町)	女	鳥取大学	教育学部	デザイン
1989 (平成元)	川崎 ミチエ クリスティーナ	琴浦町 (東伯町)	女	鳥取大学	工学部	土木材料学
1990 (平成 2)	吉田 美幸 ミリアン	鳥取市 (福部村)	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	日本の建築技術等
1991 (平成 3)	本橋 敏江 クリスティーナ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	知能情報工学
1992 (平成 4)	清水 ラケル	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	保健体育学
1993 (平成 5)	羽島 月江	米子市	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	デザイン
1994 (平成 6)	淵田 クリスティーナ あゆみ	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	日本語
1995 (平成 7)	清水 デニーゼ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	地質水質学
1996 (平成 8)	西尾 エリーザ 真理	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	工学部	品質管理
1999 (平成 11)	細田 アダウベルト 英二	伯耆町 (溝口町)	男	鳥取大学	地域教育学部	情報処理

2000 (平成 12)	大橋 ルシア みちこ	智頭町	女	鳥取大学	農学部	水質浄化
2001 (平成 13)	井上 友子 マルガリータ	米子市	女	鳥取大学	農学部	農業経営
2003 (平成 15)	カリーナ メグミ ニシオ	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	農学部	食品衛生・畜産物 加工
2004 (平成 16)	ウゴ ヤマシロ	八頭町 (船岡町)	男	鳥取大学	医学部	内科学
2005 (平成 17)	スエナガ アユミ	八頭町 (郡家町)	女	鳥取環境大学	環境政策学科	環境政策

平成18年度（2006年度）
鳥取県海外技術研修員等
研修報告書

平成19年（2007年）3月

発行 鳥取県文化観光局交流推進課
〒680-8570
鳥取市東町一丁目220
電話 0857-26-7030